

す。三重県では、事業者やNPOなどと協働で、普通の社会活動・経済活動の中で、無理なく自然に健康な生活習慣が形成されるような仕込みをしていく「社会環境整備」を重視しています。

例えば、「健康づくりの店」の取り組みがあります。いわゆる栄養成分表示ですが、正確な数値の表示という専門的自己満足を求めず、「野菜たっぷり」、「塩分控えめ」、「カルシウムたっぷり」、「低脂肪」という、メンテナンスコストが低く、かつ利用者がほしい粗さの情報を提供しています。さらに「郷土の味」、「県産品」、「禁煙・分煙」、「バリアフリー」といった、関連して利用者が欲しい情報も併せて提供しています。

条例でもこうした考え方を明記して、社会全体で健康づくりを進める根拠となるようにしています。

皆さんも、職場で希少な栄養の専門職として、「献立作成」や「栄養指導」に加え、「社会環境整備」を意識していただければと思います。

## (2) 少数設置職種に適した実現手法

行政でも集団給食施設でもその他の職場でも（養成校などは別ですが）、栄養士というのは少数設置のようです。で、栄養士がどのような状況かは具体的に知りませんが、一般に少数職種の場合、何かをする際に、自分だけでやろうとしたり、一人でできる範囲で自己抑制したりしがちです。

普段はともかく、上記のような社会環境整備に取り組もうとする時には、さすがに一人では大変です。ではどうしたらよいのでしょうか。

1つには横の連携だと思います。これは従来からいわれており、栄養士会による情報共有や組織活動などがこれに当たります。三重県でも「地域栄養管理ネットワーク研究会」で横の連携を進めています。

もう1つが「巻き込む」ことです。これは難しいです。一緒に働いているのは専門職であっても

違う職種であり、決定権を持っているのは管理側の事務方です。そういう場合、往々にして、味優先・盛り付け優先姿勢や、収支優先・コスト削減姿勢と衝突しそうになったり、財政削減の大方針に負けたりするかもしれません。でも、わかってくれないといって、あきらめたり対立したりしては進みません。味を優先する人や収支を優先する人というのは、組織において、それを最も優先する役割を担っている人たちであり、その使命感やプライドに照らして、それを最も大切だと感じている人たちなのです。日頃、こちらもそれを尊重し共有したうえで、逆に健康づくりの重要性も共有してもらって、お互い一緒に考えていくことが必要です。時にはこちらから意識的に巻き込まれていくことも大切でしょう。

でも、ある日突然そんなことを言い出したら、なんかうさん臭く思われるかもしれません。ちょっと勇気がいりますね。

そのときの1つのきっかけとして、「栄養改善法が健康増進法になった＝栄養も含めた健康づくりをみんなで考える時代になった」というネタが使えないでしょうか。三重県内の方は、「三重県健康づくり推進条例（とかいうもの）ができて、事業所も健康づくりをする責務が定められた（らしい）」というネタも、併せ技で使ってください。

条例とか法律とかいうものは、専門家の間では「法的根拠だ」と振りかざせても、住民にはあまり直接の役に立たないものです。せめてそのように生かしていただければと思います。

以上です。冗長な駄文へのお付き合い、ありがとうございました。

ご質問は、三重県健康づくりチーム（TEL：059-224-2294）か、k-joe@mx7.freecom.ne.jpまで（感想お待ちしております。）。なお、条例は暫定的に<http://www.geocities.co.jp/MotorCity-Rally/7310/>にもおいてあります。